

答 辞

本日は私たち修了生のために、このような盛大な式典を挙げて頂き、まことにありがとうございます。また、お忙しい中ご臨席くださいました学長先生をはじめ、諸先生方、ならびにご来賓の皆様方に修了生を代表して、心より御礼申し上げます。

東京農工大学に入学して六年が経ちますが、入学式のことを昨日のこのように思い出します。当時の私は管弦楽団が演奏する大学歌を聞きながら、「新たな学生生活の中で何を学び、将来どんな職業に就くことができるだろう」と期待に胸を膨らませていました。そして今日は管弦楽団の一員として演奏しながら、あの頃より明確になった夢への新たな希望を携えて、修了式を迎えることが出来ました。

私たちは大学生活の中で、多くのことを学び、視野を広げるとともに自分自身を見つめ、成長することが出来ました。特に研究室では、先輩方、先生方からご指導いただく中で、自分の考えを他人に論理的に伝えることの難しさと大切さを学びました。また、自分の行っている研究をいつか世の中の人々のために役立たせる、という目標が私の原動力であることに気付くことも出来ました。この原動力は、これから先も私を支えてくれると確信しています。そして、同じ学科の友人とは、共に成長する喜びを分かち合う中で、一生の友達と呼べる関係を築くことが出来ました。サークルや学園祭においても、様々な人々と出会い人間性を深めることが出来ました。

六年間の充実した大学生活は今日で終わり、明日からは東京農工大学大学院修了生として、新しい生活が始まります。そしてそれは同時に、今までお世話になった友人達や先生方とのお別れを意味し、少し不安もあります。しかし、学生時代に学び培ったことを活かして自分の選んだ道を進み、自分の仕事を社会に貢献させることで、お世話になった方々へ恩返しができると思います。精一杯努力していこうと思います。

最後になりましたが、今までご指導してくださいました先生方、学生生活を支えてくださった職員の方々、六年間ずっと一緒に勉強してきた友人達に心からお礼を申し上げます。そして、今日この日まで私たちを育ててくれた家族に、深く感謝致します。本日は本当にありがとうございました。皆様方の更なるご活躍を心よりお祈り申し上げ、感謝の気持ちを込めて、答辞とさせていただきます。

平成二十二年三月二十五日

修了生代表

工学府 物理システム工学専攻二年

芦沢 さや歌